

Environmental Sustainability Report

環境経営報告書

2025年実績

20
26

Contents

- 1 環境報告書の説明
- 2 社長ごあいさつ
- 3 企業理念
- 4 事業概要
- 5 環境マネジメント体制
- 6 2025年環境マネジメント計画と結果・評価
- 7 環境経営の概要
- 8 監査・コンプライアンス遵守・マネジメントレビュー
- 9 環境経営実績

環境報告書の説明

編集方針

近年、多くのステークホルダーからCSR（企業の社会的責任）の視点での企業活動が強く求められています。CSRとは企業が自社の利益を追求するだけでなく、自らの組織活動が社会へ与えるあらゆる影響に責任を持ち、適切な意思決定を行うことです。今、世界では環境汚染、地球温暖化、自然災害、資源・エネルギー・食糧需給のひっ迫、児童労働などの人権問題など、人類社会の持続的発展を脅かすさまざまな課題が顕在化しています。企業が永続的に地域社会と共生し発展するためには、企業自らが社会の一構成員としてこれらの課題解決に真摯に向き合い、事業活動のあらゆる面で社会的責任を果たし、「持続的発展が可能な社会」の構築に貢献する存在でなければなりません。

具体的には、滋賀事業所で資源循環の拠点となる「サーキュラーセンター」の運用を開始し、再資源化の推進に取り組みました。開発では、設備の長寿命化に貢献する製品の拡充を進め、事業を通じた環境負荷低減にも努めています。あわせて、試験場の空調改善や敷地内全面禁煙の実施など、社員の健康と働きやすさに配慮した職場環境づくりに取り組みました。

一方で、当社は創業来、企業としての社会的価値を生み出す源泉は企業を支える社員であるとの考えから、社員重視の経営を続けてきました。企業としての社会的責任を持続的に果たしていくため、これからも社員を大切に育成し、コンプライアンスやサステナビリティの意識を浸透させることはもとより、社員が健康で働きがいや幸せをより一層感じられる健康経営にも取り組んでいきます。

兵神装備はこれからも独自の製品で社会に貢献することを第一に、公正かつ透明な企業行動に徹するとともに、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

本報告書は当社グループの経営と環境への取り組みの全体像について、環境経営レポートを参考にしてステークホルダーのみなさまの視点を重視した編集に努めました。

兵神装備株式会社
代表取締役社長 市田 邦洋

報告対象 兵神装備株式会社、ヘイシンテクノベルク株式会社、プロキューブ株式会社

対象期間 2025年1月-12月 発行年月 2026年7月

編集・発行 環境管理推進委員会 発行責任者 品質・環境管理責任者：山根哲男

ごあいさつ

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は1968年の創業以来、半世紀を超えてモノポンプ®を中心とした事業に取り組み、お客さまの困りごとや社会の課題に向き合いながら、技術と品質を磨いてまいりました。現在では、電池、上下水道、自動車、食品、化学、電機、化粧医薬品、製紙など、幅広い産業分野で当社の製品・サービスをご活用いただいております。

近年は、気候変動に伴う自然災害の激甚化、資源・エネルギーを取り巻く環境変化、各国の規制強化など、企業を取り巻く経営環境が大きく変化しています。当社は、こうした変化を重要な経営課題として捉え、事業活動に伴う環境負荷の低減はもとより、製品・サービスを通じたお客さまにおける省資源、省エネルギー、設備の安定稼働と長寿命化にも取り組んでいます。2025年は、Scope1・2・3におけるCO2排出量の把握を進め、具体的な環境経営の基盤づくりを前進させました。

また、品質・環境・安全衛生マネジメントの強化、人材育成、健康で働きやすい職場づくり、地域社会への貢献にも継続して取り組み、持続可能な成長を支える経営基盤の充実に図っています。

これからも兵神装備は、企業理念である「卓越した流体技術と創意で世界を支える」を体現し、お客さまの課題解決を通じて社会に貢献するとともに、持続可能な社会の実現に向けた歩みを着実に進めてまいります。



兵神装備株式会社
代表取締役社長 市田 邦洋

企業理念



基本理念 卓越した流体技術と創意で世界を支える

ビジョン

- ・ お客様満足最大化を目指します
- ・ 卓越した流体技術を提供する創意工夫型企业になります
- ・ 働きがいのある職場環境をつくります
- ・ 社会への貢献を続けます

経営方針

当社は今後とも、移送テクノロジーの追求から得られる知見をもとに、独自の製品で社会に貢献することを第一の使命とし、不易流行の精神で、新たな未来を切り拓いてまいります。

環境方針

1. 下記の項目に目標を設定して取り組み、その達成状況を確認し、状況に応じて改善していきます。
 - i. 資源・エネルギーの効率利用：資源・エネルギーの効率的な利用により環境への負荷を削減し、資源のリサイクル活動・グリーン調達を促進します。
 - ii. 環境にやさしい製品の設計・開発：有害物質を排除した製品や省エネ、長寿命化製品の設計・開発を行います。
 - iii. 環境製品の販売促進活動：社会の省資源・省エネに貢献するグリーン製品の販売を促進します。
 - iv. 環境にやさしいアフターサービスの提供：顧客へのメンテナンスサービスの提供により、製品の予防保全や長寿命化を促進します。
 - v. 排出物の適正処理：化学物質の適正処理、関連装置の改善により排出物の削減と適正処理を行います。
 - vi. 廃棄物の削減及び適正処理：廃棄物の削減・分別収集、再利用の促進、適正処理を行います。
2. 環境法令・条例・協定、その他当社が受け入れを決めた要求事項に関し、社内自主基準を定め、徹底遵守いたします。
3. 環境教育、広報活動を行い、全社員が環境方針を理解し、環境保全意識の向上を図ります。
4. 緊急事態発生時の環境汚染被害を最小限にするため、予防・緊急時対応に万全を期します。
5. ISO14001 に準拠した環境マネジメントシステムを構築し、維持・改善を行います。

事業概要

事業内容 産業用ポンプ（モノポンプ[®]・モノディスペンサー[®]）および周辺機器の製造・販売

事業拠点 営業拠点 研究開発拠点 サービス拠点 プロモーション



事業規模と経営概要

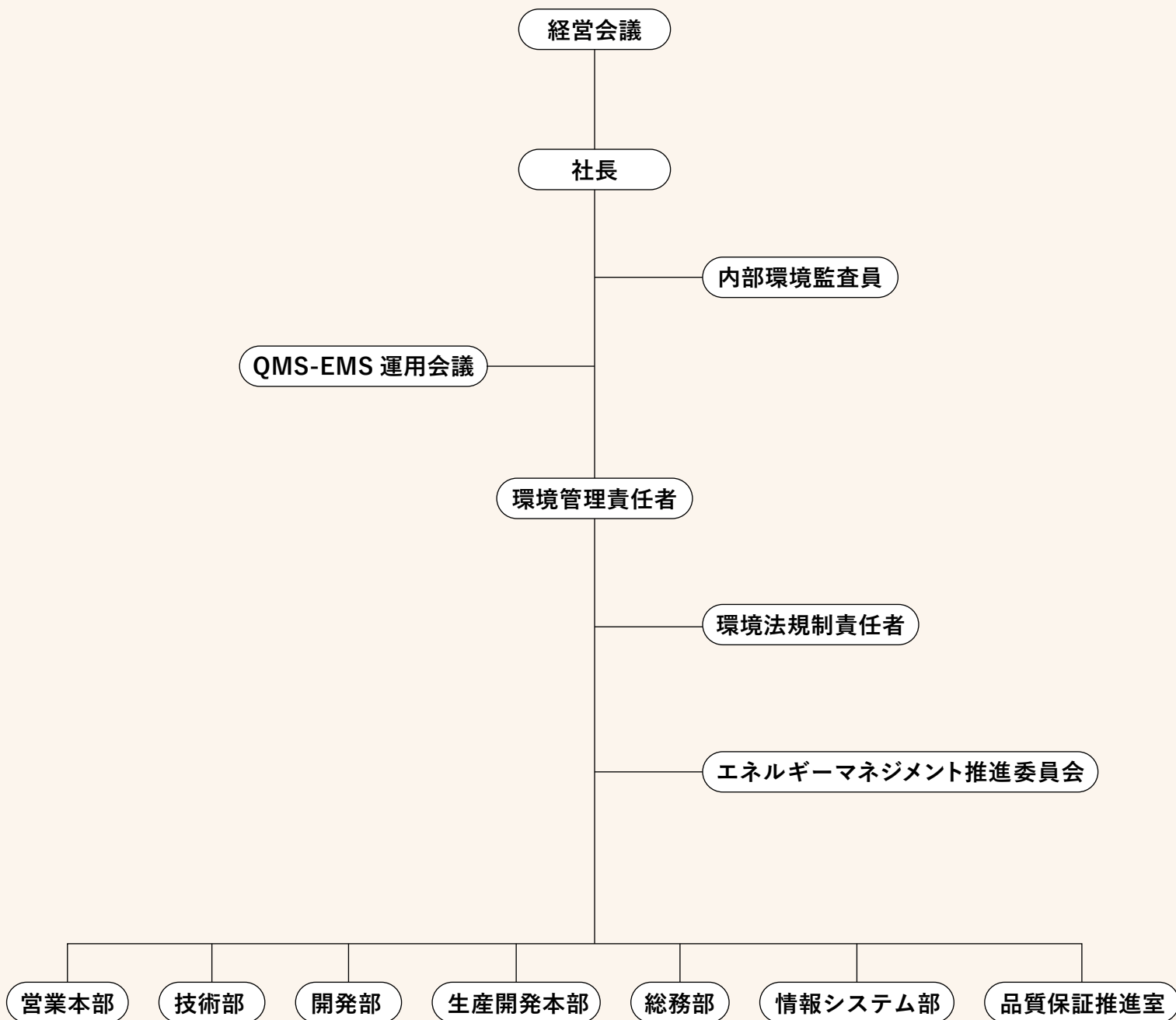
年度	2023	2024	2025
業績（売上金額 ¥千）	16,594,736	16,954,117	18,160,795
社員数（人）(*1)	469	485	503
労働時間（h）(*2)	881,131	904,631	912,501

主要事業所 延べ床面積 (㎡)	本社	3,645
	滋賀事業所	33,016
	横浜プロモーションセンター	2,345

(*1) 12月時点の単体ベース集計 (*2) 勤怠管理から集計した全社員の就業時間

環境マネジメント体制

2025年



6-1

2025年環境マネジメント計画と結果・評価

営業本部（販売）

環境方針	計画	目標	部門長評価
社会の省資源・省エネに貢献するグリーン製品の販売を促進する	- 重点販売機種 - 省資源・省エネに寄与する製品の販売促進	機種ごとに販売目標台数	△
	旧製品の更新を推進	- 稼働機情報の登録目標件数 - 旧製品の更新目標台数	△
営業品質を高め日常業務の無駄をなくし業務効率を上げる	- 業務平準化及び効率化、手配指示の平準化 - 営業ミスに起因する販売不良の削減	- 手配指示の月末集中を解消する目標率 - 営業ミスによる販売不良の削減目標件数	×
資源・エネルギーの効率利用	資源削減	お客様納入仕様書の電子図書発行の目標率	○
	健康経営の促進	車両交通事故0件	×

2025年環境マネジメント計画と結果・評価

営業本部（アフターサービス）

環境方針	計画	目標	部門長評価
お客様へ適切なメンテナンスサービスの提供により、製品の予防保全や長寿命化を促進	・ アフターサービス力の向上	・ 処理場及び民間ユーザーへの巡回訪問目標件数	△
	・ アフターサービス業務の生産性向上	・ 部品供給不良及びメンテナンス不良の削減目標件数	△
	・ アフターサービスステーションの強化	・ 個別研修の実施目標件数 ・ 新規サービスステーション立ち上げ検討	○
省資源・省エネに貢献するアフターサービス販売を促進	・ アフターサービス採算評価 ・ ヒューマンリソースの検討	・ 環境側面に貢献するアフターサービスの見積もり及び受注の目標件数	△

2025年環境マネジメント計画と結果・評価

技術部・開発部

環境方針	計画	目標	部門長評価
受注設計プロセス	使用禁止化学物質部品の代替調査と採用 ① ポジティブリストの運用開始 ② 欧州指令対応を考慮した運用を企画 ③ PFAS 規制対象品の切り替え	① ポジティブリスト対応のシステム運用 ② 使用禁止化学物質の運用企画 ③ ECHA から情報を迅速に情報展開	○
エンジニアリングプロセス	PFAS物質を含有する部品の代替品の調査と採用 ① フッ素ゴム以外での耐液性調査 ② 薬液注入ポンプのPFAS対応検討 ③ 食品医薬化粧品向けPFAS対応検討	① 運用継続 ② 動向調査、対応方法の調査・実行 ③ 実績の調査、関係者で方針検討	○
マネジメントシステム運用	① 有害物質使用特定施設の休止 ② 技術研究所から排出する廃液、粉体試験場の廃粉体の適正処理 ③ 特定施設である超音波洗浄機 2 台の廃液の適正処理	① 要領書に基づく点検 ② 廃棄物処理法に基づく廃棄物処理と廃棄物置き場を適正に維持 ③ 要領書に基づく点検と洗浄液の入出量の確認と記録	○
資源循環型ビジネスへの取組遅れのリスクに対応する	2Q: サステナビリティ準備委員会にて、資源循環型ビジネスの議論を開始 4Q: 資源循環型ビジネスの方針を定めて、サステナビリティ準備委員会にて合意する。	資源循環型ビジネスを実現するための、ロードマップの立案と社内の合意形成	○
① 個別PFAS (PFHxA) の代替ステーター材料の開発	① ステーター材料の個別PFAS (PFHxA) の代替材料を評価と切り替え	① 計画どおり代替材料の評価と切り替えを進める。	○
② ユニバーサル PFAS 対応方針の立案	② 技術戦略・開発会議に情報を集約し、ユニバーサル PFAS 規制への対応方針を対案する	② 一次情報に基づいて、過不足のない対応方針を立案する。	○

2025年環境マネジメント計画と結果・評価

生産開発本部

環境方針	計画	目標	部門長評価
限りある資源を大切にし、 環境にやさしい製品を提供 し続ける	・ 市場クレーム撲滅に関する各工程の品質環境改善に向けた取り組み 7 テーマ	・ 市場クレーム件数の削減	△
	・ 工程内不適合の削減に関する各組織の品質環境改善に向けた取り組み 8 テーマ	・ 工程内不適合件数の削減	○
	・ 表面処理加工の改善 - 生産性向上	・ 良品率 98% 以上	△
	・ 開発テーマの品質・環境統合マネジメントシステムレビューの確立と運用	・ テクニカルレビュー評価	○
	・ 職場環境・人材育成環境の取り組み	・ 品質道場の運用	○
	・ 社内加工品の良品率を上げ生産性向上	・ 基幹部品の良品率向上	△
	・ 化石燃料の削減と廃棄ロスの削減	・ 化石燃料を消費する設備のリスト化	○
	・ サプライヤーとの良好な関係維持、品質管理の向上	・ 品質環境監査と良品率率向上	○

2025年環境マネジメント計画と結果・評価

総務部

環境方針	計画	目標	部門長評価
資源エネルギーの効率利用	・ デジタルデータの削減	・ 対象ごとの個別設定	△
	・ 定期購読書のデジタル化移行	・ デジタル化移行	×
	・ 専用システムによる監視を通じた電力使用量の削減	・ 具体策の展開	○
	・ 専用システム（アスエネによる）CO2 排出量の算出と可視化	・ 運用体制確立	◎
	・ 本社エアコンシステムの更新による稼働電力削減	・ 工事実施	◎
	・ 交通事故の撲滅	・ 事故損失費用減	×
廃棄物の削減及び適性処理	・ 「禁忌樹脂（フッ素、塩ビ）をエコマイト化」、「大型ステーターを鉄鋼材料（電炉）へリサイクル」プロセスの確立による埋立処理廃棄の削減	・ 全量削減	達成率 73%

2025年環境マネジメント計画と結果・評価

情報システム部

環境方針	計画	目標	部門長評価
使用電力量の低減	・ Win11用PCのレンタル契約実施	・ 計画に対する進捗管理	
資源の有効利用	・ 使用しなくなったWindows10PCのリユース化	・ 計画に対する進捗管理	

2025年環境マネジメント計画と結果・評価

品質保証推進室

環境方針	計画	目標	部門長評価
品質・環境マネジメントシステムの有効性および変更の必要性	2025年にかけて、自社の状況を鑑みて品質方針、環境方針を示すこと	計画に対する進捗管理	○
委員会活動と職制・職場の役割と責任を再確認し肥大化を防ぐこと	環境関連委員会の統合を検討する	- 計画に対する進捗管理 - 第2四半期で完了	△
会社のCO2排出量算出の精度向上を図る ：2024継続	Scope 1の集計について、「請求書」によるデータを正として集計する事を決定	Scope 1の集計については半期で対応完了	○
教育システムの充実（OJT含む）チームリーダー育成	内部監査のレベルアップ教育（外部コンサルを活用した育成・支援の企画）	計画に対する進捗管理	○

環境経営の概要

7-1 環境側面

7-2 環境製品

7-3 教育・人材育成環境

7-4 職場環境

7-5 健康経営・健康増進

7-6 地域社会環境の貢献

環境経営の概要

環境側面

滋賀事業所 サークュラーセンターの資源循環化運用を開始



2025年2月、滋賀事業所の工場用地拡大に伴い、新たな廃棄物保管施設が竣工しました。当社の資源循環を牽引する場を目指し、名称を「サーキュラーセンター」としました。本施設ではリサイクル促進のため、処理方法別の分別保管を徹底しています。場内には桜色の明るいサインとピクトグラムを配し、社員の分別意識と清潔感を両立しました。さらに、収集運搬時の動線を確保するなど、処理業者様の作業効率にも配慮した設計を取り入れています。



ステーターを資源循環化、最終処分を大幅削減



当社滋賀事業所では、廃ステーターや一部の樹脂（フッ素、塩ビ等）のリサイクルが困難であり、従来は埋め立て処分を行っていました。本年、この課題解決に向け、廃ステーターは電炉メーカー様での鉄鋼材料化を実現。また、リサイクル困難な樹脂についても、新技術を持つ処理業者様への委託により、鉄鋼副資材（フォーミング抑制剤、加炭剤）への再資源化を実現しました。これらの取り組みにより、埋立て廃棄物を約8割低減しました。



環境経営の概要

環境側面

温室効果ガス排出量管理クラウドサービス「アスエネ」導入



当社はカーボンニュートラル実現に向け、CO2排出量の見える化クラウド「アスエネ」を導入しました。

部門横断の分科会による活動の結果、2023年度の全社排出量を初めて把握しました。算出にあたっては、自社の直接排出 (Scope1)、他社から供給されたエネルギーに伴う間接排出 (Scope2)、およびその他のサプライチェーン全体での間接排出 (Scope3) を網羅しています。今後

は算出精度の向上や自動化を推進するとともに、製品ごとの排出量を示す「カーボンフットプリント」の検討も開始し、脱炭素経営を一層加速させていきます。



ステンレス部品の酸洗浄を廃止

溶接製品製造工場におけるリン酸を使用したステンレス部品の洗浄を廃止し、リン酸を使用しない表面処理を導入しました。これにより、リン酸の保管と廃液の処理が不要となり、環境影響リスクをなくしました。あわせて、排水管理や法令への対応、化学物質管理の工数・コストを削減し、作業者のばく露防止、流出事故や操業停止リスクの回避を通じて、安全衛生の向上と事業継続性を強化しました。



環境経営の概要

環境製品

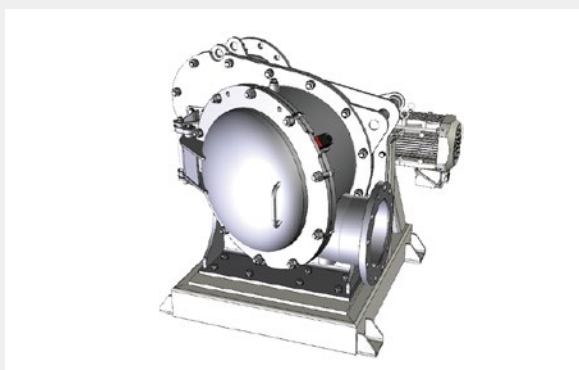
塗布量管理システム：品質の「見える化」で廃棄ロスを削減



モノディスペンサーへの液供給を安定させる周辺機器「ウェーブアップソーバー」内の液の減少量をレーザーセンサーで測定し、塗布量を精密に管理するシステムの発売を開始しました。高まるトレーサビリティ需要に応え、塗布の正確性を数値化（見える化）することで、塗布不良を未然に防ぎます。これにより材料のムダや製品の廃棄ロスを削減し、お客様の製造現場における品質向上と環境負荷低減の両立に貢献します。



大流量仕様モノカッター MC603SE：都市インフラの安定稼働に貢献



大都市圏の下水処理ニーズに応え、大流量の汚泥処理が可能な「モノカッター MC603SE」の発売を開始しました。下水汚泥に含まれる布きれ・木片・髪の毛などの固形物（し渣）は、汚泥の移送工程で使用するモノポンプ®や攪拌機等の機器への絡みつきの配管の閉塞を引き起こし、故障や停止の原因となります。本製品はこれらを確実に破碎・細断することで設備の短寿命化を防ぎ、社会インフラの長期安定稼働と廃棄物の抑制に貢献します。



環境経営の概要

環境製品

耐薬品・耐摩耗性を向上した特殊フッ素ゴムステーターのラインアップ拡充



2023年に発売した「特殊フッ素ゴムステーター」は、低コスト化と長寿命化を両立し、資源の有効活用に寄与する製品です。本年度は、耐薬品性が必要とされる研究開発現場からの強い要望を受け、小容量の3型式を新たにラインアップしました。

本製品の主用途であるマイクロリアクターは、従来のシステムと比較して合成効率が向上し、工程数や廃棄物の削減

を可能にする技術です。耐薬品性に優れたステーターの型式を拡充することで、環境負荷の小さい化学合成技術の普及を支え、持続可能なモノづくりの推進に貢献してまいります。



環境・人に配慮した次世代コントローラー「DPU-F600 シリーズ」



モノディスペンサー専用コントローラーの新モデル「DPU-F600シリーズ」は、環境負荷低減と使いやすさを追求した製品です。RoHS指令やREACH規則に準拠し、製品本体のみならず梱包材に至るまで有害化学物質の排除を徹底。EMC指令適合により、電磁波による周辺環境への影響にも配慮しています。

機能面では、吐出流量の自動計算機能により設定工程を効率化。EtherNet/IP(R)対応による省配線化や、運転履歴

の保存による高度な設備保全を可能にし、現場の資源効率向上に寄与します。人間工学に基づいたユニバーサルデザインも採用し、環境・社会の両側面から持続可能な生産現場の構築を支援してまいります。

※EtherNet/IPは、ODVA, INC.の登録商標です。



7-3

環境経営の概要

教育・人材育成環境

技能五輪全国大会で銅賞獲得



当社の岩崎飛那太が第63回技能五輪全国大会「フライス盤」職種で銅賞を受賞しました。大手企業の出場者が競う中での入賞であり、2008年の挑戦開始以来、当社初の快挙です。ミクロン単位の精度を追求する高度な技能は、品質向上に加え、不良低減による省資源化や加工効率向上による省エネルギー化にも寄与します。当社は今後も、環境に配慮した持続可能なものづくりを推進してまいります。



環境経営の概要

職場環境

技術研究所 試験場の空調改善用チラー（冷却水循環装置）導入



滋賀事業所では、年間を通じて温度が安定している地下水を利用したファンコイル冷房を行っていますが、近年の酷暑による熱負荷の増大が課題となっていました。そこで本年、特に暑さが課題であった、技術研究所試験場の環境改善のためチラー（冷却水循環装置）を導入しました。これによりファンコイルの冷却を補助することで、酷暑下でも室内温度を約27℃に維持することが可能となり、作業環境が大きく改善しました。今後も社員や来場者の皆様にとって、より快適な環境づくりを推進してまいります。



滋賀事業所 テクニカルセンターとスカイウォークにスマートブラインドを導入



滋賀事業所の玄関口、テクニカルセンターとスカイウォークに、独ヴァレーマ社製「スマートブラインド」を導入しました。本設備は日射角や外気温に応じ羽根の角度を自動制御し、遮熱と採光を両立。空調負荷を低減し、酷暑下でも快適な職場環境を実現します。また、建物と調和するデザインにもこだわり、当社の環境姿勢を象徴する設備に仕上げました。今後も省エネと快適性を追求し脱炭素経営を推進します。



環境経営の概要

職場環境

滋賀事業所開発：部品センター拡張



昨年3月、部品センターを40m延伸する拡張工事が完了しました。これによりサービス倉庫が拡大し、増加傾向にある部品の保管量と部品点数への対応力が向上しました。また、梱包ルームの拡張により、空調の整った快適な環境での個装作業が可能となりました。さらに、休憩室やトイレの新設に加え、2階には事務室と改善活動用の大型ミーティングルームも整備。作業効率の向上とともに、より働きやすい職場環境を実現しています。

環境経営の概要

健康経営・健康増進

全社全面禁煙化

当社は、2025年10月1日から、全ての事業所および関連施設において敷地内全面禁煙を開始しました。全社員が安心して働ける環境をつくるため産業医による禁煙セミナー動画の配信、2週間禁煙キャンペーンなどを継続的に実施し、社員の理解を得た上で全面禁煙に移行しました。「当社敷地内で一切の喫煙をしないこと」（屋内・屋外を含む全エリア、社有車・駐車中の自家用車など）を全社ルールとして、社員だけでなく来社されるお客さまにも、敷地内禁煙へのご理解とご協力をお願いしています。



環境経営の概要

地域社会の環境貢献

国スポ障スポ滋賀 2025 オフィシャルスポンサー & ボランティア参加



当社は、44年ぶりに滋賀県で開催された第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会”わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大会”を社員が一体となって応援するため滋賀県ならびに長浜市に支援金を贈呈しオフィシャルスポンサー就任となりました。これをきっかけに多くの社員がボランティアとして競技会場での運営支援や、ソフトテニスの会場となった長浜城テニスガーデン supported by HEISHINの整備清掃活動に参加、他県来場者へのおもてなしを通して滋賀県の魅力を最大限アピールしました。



滋賀事業所で滋賀県新技術・新工法展示商談会を開催



当社技術研究所において、滋賀県主催による「滋賀県新技術・新工法展示商談会」を開催いたしました。

県内11社が先進技術や独自工法、各種サービスを紹介し、地域企業の優れた技術力を広く発信する機会となりました。当社社員も展示・プレゼンテーションを通じて課題認識を共有し、導入候補の評価を開始しております。今後も地域産業の活性化と環境目標の達成に資する技術探索を推進してまいります。



環境経営の概要

地域社会の環境貢献

全国水道企業団協議会 滋賀事業所見学会：社会貢献度の広さをアピール



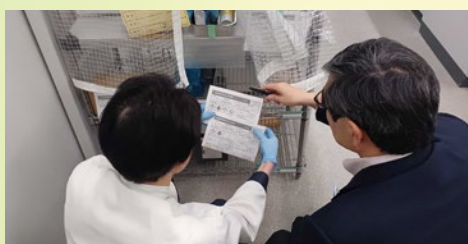
11月14日、全国の水道企業団幹部職員67名をお迎えしました。見学会では、浄水場の「困り事」を解決する製品をアピールするとともに、多分野で活躍するモーノポンプ®の汎用性を紹介。参加者からはその「社会貢献度の広さ」に驚きの声が上がりました。今後もお客さまの課題解決を通じ、持続可能な社会の実現に向けた歩みを進めてまいります。



監査・コンプライアンス・マネジメントレビュー

コンプライアンス遵守

ISO 9001/14001 サーベイランス審査の結果と環境経営



2025年5月、ISO 9001/14001サーベイランス審査を5拠点で受審し、不適合なしとの評価を得ました。この審査により、事業活動が環境法規制を遵守しつつ、品質と環境マネジメントの両面で改善を重ね、有効に運用されていることが確認されました。今後も継続的改善の考え方のもと、環境リスクの低減と環境パフォーマンスの向上に努め、事業活動を通じた持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

コンプライアンス遵守

当社は、事業活動に関する環境法規制および対象を「環境法規制等登録簿」で明確化し、これに基づき遵守活動を行っています。各部門の環境法規制担当者が、現場や各拠点での日々の遵守活動について評価を実施した結果、該当する全ての環境法規制が適切に遵守されていることを確認しました。引き続き全社員が法規制等に基づいた活動を継続することで、環境コンプライアンスの確実な遵守に努めてまいります。

マネジメントレビュー

品質・環境活動の1年間の成果と課題を次年度の計画に反映するため、社長によるマネジメントレビューを11月の執行役員会にて実施しています。2025年度のレビューは、「2026年に、ISO 9001/14001の改定が予定されており、それに向けた仕組みの再構築が必要である」という方針を示していただきました。新規格の動向を的確に把握し、当社のマネジメントシステムへの影響を評価するとともに、必要な見直しや準備を計画的に進め、環境経営のさらなる強化に努めてまいります。

環境経営実績

事業活動に伴う環境負荷の自己チェックでは、2023-2024 年と対比して売上比と主要事業延べ床面積比あたりの環境負荷を維持していることを確認しました。

インプット

エネルギー		2023	2024	2025	
電力 kWh	総使用量	3,048,101	3,416,764	3,606,831	kWh
	太陽光発電量	-817,884	(*1)-452,755	-576,785	kWh
	正味買電量	2,230,217	2,964,009	3,030,046	kWh
ガス (LPG 等)		21,569	21,099	17,169	m ³
ガソリン		68,934	66,078	67,296	ℓ
軽油		6,671	6,695	6,354	ℓ
灯油		4,534	3,428	2,810	ℓ
換算 CO ₂ 排出量		1,137	(*2)1,604	1,607	ton

(*1):2024 年から太陽光発電量の売電分を除外しました (*2):2024 年から CO₂ 排出量換算の係数を変更しました

資源	2023	2024	2025	
金属	816.8	758.8	749.4	ton
ゴム	48.2	44.2	41.6	ton
プラスチック	2.7	2.5	7.4	ton
ウエス	1.4	2.3	1.6	ton
ダンボール	65.3	30.0	72.4	ton
木材	14.1	16.2	16.2	ton
紙 (コピー用紙他)	6.0	6.1	3.9	ton
上水	1,921	1,962	2,023	m ³
地下水	17,463	17,748	26,169	m ³

化学物質・その他	2023	2024	2025	
塗料 / 接着剤	7.5	7.7	5.3	ton
溶剤 (シンナー等)	1.7	1.7	0.7	ton
油類 (切削油、潤滑油)	5.2	1.8	4.2	ton

アウトプット

製品・サービス		2023	2024	2025	
製品		546.9	536.6	522.4	ton
アフターサービス		157.4	175.8	155.5	ton

資源・循環リサイクル		2023	2024	2025	
循環資源	金属	60.3	62.4	57.0	ton
	紙	12.2	11.6	11.3	ton
	ダンボール	15.1	14.9	19.3	ton
	木材	3.2	3.8	4.9	ton
資源リサイクル	廃ステーター	0.1	5.9	4.7	ton
	混合金属	6.9	6.0	15.8	ton
	廃プラスチック	18.2	13.5	9.9	ton
	ゴム	7.5	4.2	3.6	ton
	木材	2.9	2.5	2.8	ton
	一般ゴミ	4.7	4.8	3.7	

排出・廃棄		2023	2024	2025	
排水		19,384	19,710	28,192	m ³
第一種指定化学物質		1.3	1.4	1.2	ton
廃液 / 汚泥		28.7	25.8	30.7	ton
廃油		1.2	1.6	1.3	kℓ
塗料 / 接着剤		4.5	4.5	2.9	ton

